消防団NEWS

市交通防災課
☎内線1682

火事だ、出動だ！

消防団が出動する現場を見たことはありますか。火災が起きたとき、団員がどのように出動し活動するのか具体的な様子を①出動、②現場到着後、③鎮火後の3回に分けて掲載します。消防団の実像をイメージしていただければ幸いです。

①出動

消防団員は災害発生のサインをいち早く察知できるよう、地域の情報に対して常に高い意識を持っています。分団に配備されている防災無線の戸別受信機をはじめ、かっぱメールや消防車のサイレン音などで災害の発生を知ると、災害の規模や出動地域を判断し、自主的に自分の所属する分団の車庫に向かいます。

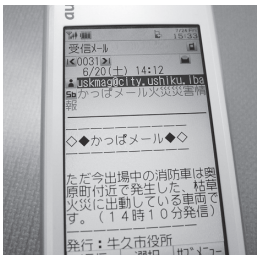
戸別受信機

そして、分団員同士で緊急連絡を取り合い、必要最低限の人数が集まり次第消防車を出動させます。消防車出動後は、直接職場などから災害現場へ向かいます。

なお、現場の状況を再確認したいときなどは、稲敷広域消防災害情報センターの自動音声案内を活用しています。

次回は②現場到着後をお伝えします。

消防分団の車庫



かっぱメール火災災害情報

稲敷広域消防災害情報センター
☎0297・64・0119
※サイレンなどが鳴っていて火災と思われる場合は、この番号で状況を確認できます。
※携帯電話からのかっぱメール登録は、左記アドレスに接続して画面の説明に従ってください。
ホームページ http://www.city.ushiku.ibaraki.jp/mailmag/i/index.aspx

画聖 小川芋銭

再び芋銭を考える⑩

二つの新たな号

一、顧白堂（こはくどう）

明治38年10月29日付け「いはらき新聞」のいはらき文学欄に、「てがみ」と題し、芋銭を含む同紙ゆかりの4人の書簡が掲載されています。

ある人物の書簡を取り上げるとき、通常、あて先まで明示するところですが、ここでは文面のみが記され、4通ともにあて先が省略されています。

各書簡の内容と、この文学欄が、「秋の人」というペンネームの人物によってまとめられていることから推して、それぞれ、同紙の主筆「佐藤秋蘋」に書き送られたものと考えられます。

紹介されている芋銭の書簡はかなりの長文で、その末尾には、「顧白堂の意は、獣に近からんとする時、自然の湖光白きあたりを顧みるとの意、白の字の強き心持は御座なく候」と記されています。

秋蘋はこれに、「秋人曰く、此手紙には顧白堂為とあり、顧白堂は芋銭氏の別号なり」という注釈を加えています。以上によって、明治期に使用した芋銭の別号に、「顧白堂」が新たに加わりました。

二、東瓜庵（とうかあん）

明治43年2月10日付けの「国民新聞」に、芋銭は、牛久における年中行事の様子を題材とした、「餅花（田舎の正月）」をかきました。

図の左上に、「東瓜庵」という文字が見えます。これは、中国の『史記』という書物の中の「東陵の瓜」をよりどころとするもので、先の「顧白堂」同様、明治末ごろの一時期に使用した、芋銭の別号と解することができます。

⬆小川芋銭作「餅花」明治43年

小川芋銭研究センター　北畠健